

アンケート結果

2016年3月22日

1 アンケートページ

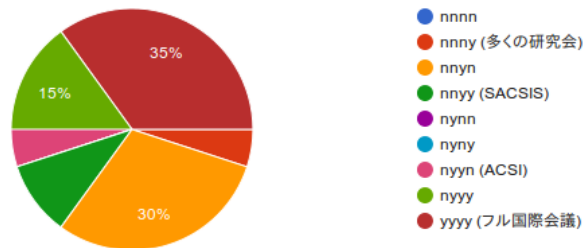
<http://kangaeru.github.io/kangaeru/docs/questionnaire.html>

に対して、3/22までに寄せられた回答を、所属や名前を消してまとめたものです。

2 結果

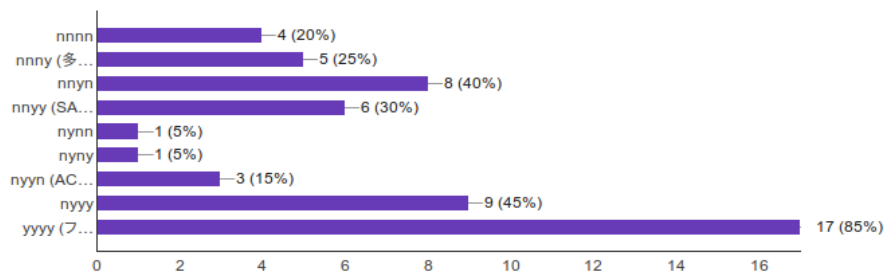
上にあげた9つの形態の学会のうち自分が「ベスト」とおもうものを選んで下さい(国際committee/投稿は英語のみ/査読/予稿集出版)

(20 responses)

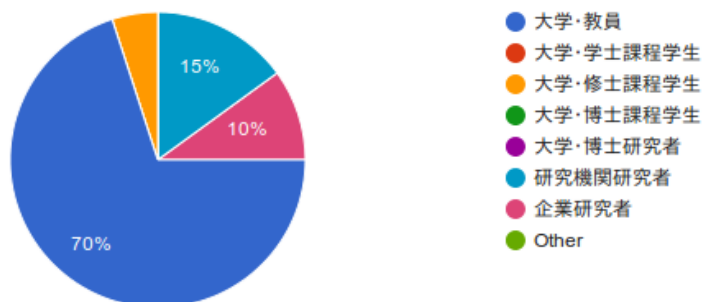


上にあげた9つの形態の学会のうち自分が、積極的に意味があると考え形態をいくつでも選んで下さい(国際committee/投稿は英語のみ/査読/予稿集出版)

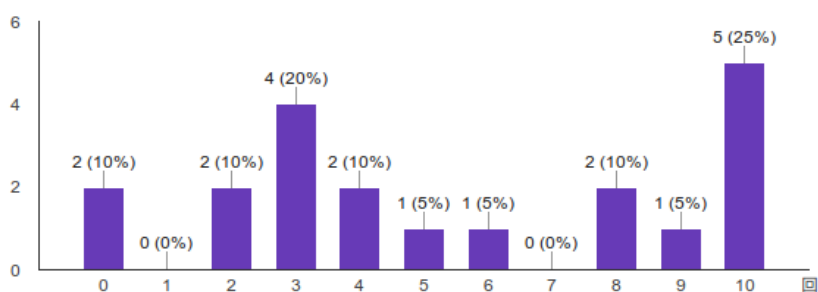
(20 responses)



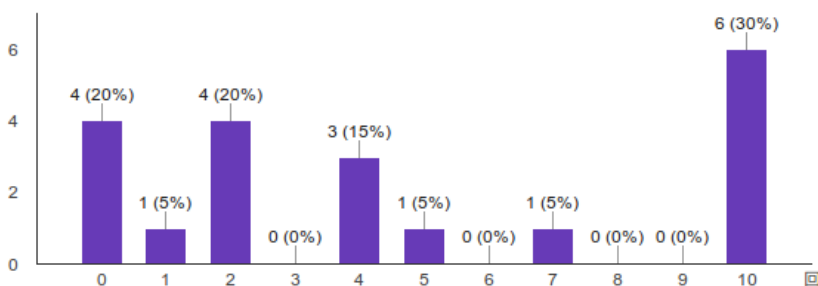
あなたのポジション (20 responses)



SAC SIS/ACSIへの参加回数 (20 responses)



SAC SIS/ACSIでの発表回数(共著含む) (20 responses)



1. 私が主に所属している研究会は EMB や SLDM 辺りとなりますので、SAC SIS/ACSI への参加経験も無い立場で回答しましたこと、事前にご容赦ください。なお、共有可能範囲は実行委員会の皆さまのご判断にお任せしたいと思います。

SAC SIS/ACSI のような多分野横断型の国内会議がどうあるべきか? をポイントとして回答しました。組込みシステムシンポジウム 2015 でも同様のパネルセッションがあり、登壇させていただきました。どの CS 領域研究会にも通じる課題と認識しています。前提として、国内研究会は「発展途上の研究成果」を（言語の壁無く）披露し合い、研究協力者／競合者を見つけて議論する場であると考えています。

問1については、各分野の研究成果と人財を突き合わせる「出会いの場」であることが重要と考えたため、発表・参加のハードルが低い nmyyn を選びました。ただし、査読は不可欠と考えます。当日の議論も大事ですが、まず査読による有益なコメントや議論が無ければ研究の進展はありません。PC委員の負荷は増えますが、各研究会／トラックで閉じるのではなく、査読時点から分野交流するのも良いかと思えます。あるいは、分野融合を理念とするなら、少しフランクな会を設定するのもいいのかもしれない。査読以外に闊達な議論を引き起こす仕掛けが考えられれば、問2も含めて査読有無への拘りは取り下げることが可能です。

問2については、2つの立場から選択させていただきました。1つめは、学生を指導する立場です。予稿集出版による業績が認められることは、学生にとってやはり好ましいことです。さらに査読があれば研究進展にも良いですし「部外の専門家に読んでコメントしてもらえた」というのは学生とってもモチベーションとなっています。投稿言語はあまり気になりません。以上の理由から、nmyy および nyyy を選びました。2つめは、研究者としての立場です。主著として投稿するからには yyyy 以外に価値を見出すわけにはいきません。

2. 学生の立場から言わせていただくと、賞をたくさん出していただきたいです。DEIM や DICOMO など、他分野の大規模な国内会議では1セッションに1つ程度に賞を与えています。しかし私の知っている限りでは、我々の分野の国内会議はあまり賞を出していないように思えます。これは学生にとってはかなり重要な問題で、賞が1つあるだけで奨学金の返済減免や学振の審査に大きなプラスになるそうです。私の実力の問題もあるとはいえ、他の研究室にいる友人が DEIM など賞を取っているのを見ると、大変悔しい気持ちになります。

賞を量産することは、研究室をお持ちの先生方や、分野そのものの進歩にもプラスになる面があります。やる気のある学生が配属を希望する研究室を選ぶ際、「賞を取っているか」は1つの基準になるんじゃないか、と私は考えています。つまり、学生が研究室に興味を持ったとしても、賞の本数を見た結果、他分野の研究室に吸い取られてしまっていることは可能性としてあると思っています。賞を多く出すことで、我々の分野に関わる研究室、ひいては分野そのものの発展に繋がるでしょう。

たかが1人の学生の意見ではありますが、「考える会」の皆さまには御一考いただければ幸いです。

3. ACSI では、ACSI に出した原稿を改善することで、他の国際会議や論文誌に出すことを推奨しています。その場合、同じような内容で2回発表をしたり、また投稿したりする必要があり、面倒と感じます。どちらも1回で済ませたいので、新しい ACSI では予稿集は出して欲しいです。その代わりに、SACIS のように国内に閉じていなく、国際的にプレゼンスのあるような学会になって欲しいと思います。
4. ・最終的には（一定水準以上の）国際会議に論文を投稿することが求められているため、自分の立場では予稿集が出版される国内会議には論文を投稿しにくいです。
 - ・そのため、わざわざ日本語版を別途準備するよりは、英語版をそのまま（可能なら書式も自由で）出せる方が好ましいですが、英語可であれば英語限定でなくても良いと考えます。
5. ・査読はあったほうがよいと思います（査読ナシなら SWoPP がありますので）。
 - ・英語のみかどうかは難しい課題ですね。書き馴れていない人は時間がかかりますし 英文校正のコストも発生します。投稿のすそ野を広げるという意味では、日本語でも 投稿できたほうがよいでしょう。 本会議は英語のみにして、日本語投稿できる workshop を併設するのかな。
 - ・IEICE CANDER が比較的うまくいっているのではと思っています。この国際会議 とすみわけする形で新しい会議が立ち上がるとよいと思います。

6. 1 は nnyy と yyyy の両方とも重要に感じます。一方で nnyy は FIT, yyyy は CANDAR という既存の枠組みをもし有効に使えばリソースの分散を避けられるのかもと思います。このアンケートでの問題の整理で、一つの最適点としての nnyy という ACSI の実装のロジックが改めて良く分かった気がします。査読 y で発行 n は運営コストと正当性的にちょっと綱渡りな気がします。SACSI 末期の問題意識の解決という点では実は著作権譲渡を工夫した上での nnyy という実装もありだったのかもしれませんが。あと、あまり深く考えずな長期的な希望ですが、研究会構成として、応用面としての HPC や高信頼、組み込みなどに加えて、HCI 的なもの、メディアやユビキタスもスコープに入れてそのような研究会との相互の議論ができたりすると、新しいテーマや交流が生まれたりしないかな、と思ったりです。
7. 関連分野の研究会のメンバーが集まれる場所はあるべき。英語化についてはやや悲観的であるが、日本の研究力を向上するために必要とも考える。
8. + 若手からすると国内開催とはいえ国際会議の運営に携われる機会が与えられるとありがたいです。いざ別の国際会議の運営を任せられたときにその経験が役に立つと思うので。
 - + 会議の形態の話とはズレるのかもしれませんが、本コミュニティで Impact Factor のある英語論文誌を作るのがよいのかもしれませんが。VLDB のように、論文誌 ⇒ 発表という形式もありかと思えます。
 - + コミュニティの維持という面では SWoPP で十分なのかも。
 - # すんません。とても自由に書きました。
9. 連携ありきで次の会議を考えるのではなく、まずは各コミュニティで需要のある会議の形態を考えていただき、レベル（主旨）や日程が合えば連携すれば良いと思っています。私の分野（ARC）では、学生にとって、国内研究会発表から国際 WS（採択率 5 割程度）あるいは初歩的な国際会議（採択率 4 割程度）までのハードルが高いと感じていますので、そこを埋める何かがあると良いのではないかと思います（例えば、信号処理の分野では、採択率が 9 割近い英文アブストのみの国際 WS があると聞きました）。
10. SWoPP との差別化を図るには査読を行う必要があると考えます。一方で、国際会議に近づけるとメリットがなくなるため、日本語での投稿を可能にするとういと思っています。それにより、若手研究者に採択会議を経験させることが重要だと思いますので、それ以外の運営上の負荷はできるだけ低くすべきです。
11. 「日本ローカルでかつ国際的な意味を持つ会を作れる」という幻想を捨てるべき。したがって先頭 nn の場合 3 つ目も n となるが、研究会間の交流を図る nnn* は SWoPP で十分。以上から yyyy にトライするか完全に廃止かのどちらかを推挙する。
12. 研究会が主体で定例の研究会があるのだから、定例研究会を補完するものを開催すべき。そのためには、「英語で書く＝国際会議への投稿促進、英語で書くことで（曖昧な表現ができなくなる）研究内容の本質を明確化する練習になる」が重用だと思う。また、査読をすることである程度のレベルの発表が集うことも、コミュニティのレベルアップに良いと思う。いろいろな方にいろいろ言われたが、以上の点は今でもそう思っている。というわけで *yy* になります。

他方、結構な努力を投稿者に求める（英語&査読あり）のだから、非公開ではあまりに投稿者に対するインセンティブがない、という意見も妥当だと思う。というわけで、ACSI とは異なり、公開するという選択肢もあり得る。しかしその場合、同じ内容を再度国際会議に投稿できない、ということも十分わかってもらう必要がある。私は、yyyy という国際会議化、も良いと最近考えるが、

立ち上げるのが大変でしょう。泡沫国際会議でも良いのか、立派な国際会議を目指すのか、で、大変さも変わりますし。nyyy も選択肢ですが、その場合泡沫国際会議以下となりますのでちょっと心配です。nyyy の場合、ACS と連携して ACS に採録されやすくする、など、後から見た時に客観的に「査読有りで、品質保証のある公開発表」とみなされる仕組みが必要でしょう。

13. 現状を考えると国際化はマストなのではないでしょうか？そういう意味で yyy が理想だと思います。ただし、既に多くの（日本発やアジア中心の）国際会議がありますので、それらと違いが明確に出せる内容の国際会議でないと新規に国際会議を作る意味はないと思います。